

メディア掲載情報

媒体名	CCI
掲載号	2007年10月15日号
掲載日	
掲載内容	弊社 インタビュー記事

KATZDEN ARCHITEC カンパニーレポート「元気企業を追跡!」
text. 階高 昇 (かいこうのぼる) PR



ノックダウン式の美しいリビング階段「ObjeA (オブジェA)」。
ランドスケープも考えたサイクルスタンド「D-NA (ディーナ)」。
ありそうでなかった製品を次々と開発するエネルギーカンパニー。

「建築家の“思い”をカタチにする…」
まさに、そんな意気込みで新しい製品を次々と開発している企業がある。ベランダ用の手すりや住宅用のシースルー階段で知られるカツデンアーキテック(東京都中央区八丁堀3-12-8 八丁堀SFビル7階、代表取締役:坂田清茂)だ。今回はこの元気企業カツデンアーキテックにスポットをあて、ものづくりの秘訣を探ってみた。

カツデンアーキテックは、いまから20年ほど前(当時はカツデン)、ベランダ手すりといったタテ格子ばかりだった時代に、水平ラインを生かした「KDライン」を業界に先駆けて発売し、多くの建築家から感嘆と賞賛を得た。坂田社長は当時を振り返る。

「ある建築家から、水平ラインを生かした手すりがないかと相談を受けたのです。当時、手すりといった縦のラインを強調したものが多かった…」

確かに、縦のラインは強さを強調できるが建物全体が無骨なイメージになる。大学で建築を学んだ坂田社長は、そんな建築家の“思い”が理解できたという。だからこそ、何度も何度も試行錯誤を繰り返しながらチャレンジし続けた。そして完成したのが前述の「KDライン」だ。この手すりはいまでも売れ続け、業界を代表するロングセラーになっている。



2003年に親会社から分社、独立。その夏に発売したのが業界初のノックダウン式スチール製シースルー階段「ObjeA (オブジェA)」だ。当時、スチール製の階段といった建築家が設計して地場の鉄工所で作るというのが一般的だった。でも鉄工所で作る階段は、設置に重機が必要だったり、安全性や強度の試験が十分にできなかったり、品質にバラツキがあるなど多くの欠点が指摘されていた。

「ある時、ハウスメーカーの設計担当者が工場を訪れたとき、「坂田さんこれだけの設備があれば階段がつくれますね」といわれたのです」「その当時はエクステリアを中心とした建材メーカーとして、アルミ製のベランダ手すりやアルミ製の屋外用らせん階段をつくっていました。屋外用らせん階段は20年近くの経験と実績がありましたが、室内用の階段にまで手を出そうとは思っていませんでした」



事業としての可能性をいろいろな角度から検討して坂田社長が下した結論は、慣れ親しんだアルミ製ではなく、スチール製で、リビングにもそのまま設置できるシースルー階段をつくろう…という大胆なものだった。スチールはアルミの3倍の強度があり、より薄く、より細くできるなどデザイン面でのメリットが大きかったからだ。

開発のコンセプトは3つ。
①現場で組み立てるだけで設置できるノックダウン式の階段であること。
②通風や採光をできるだけ妨げないシースルー階段であること。
③エレメントを減らし、細部の仕上げにこだわった美しい階段であること。

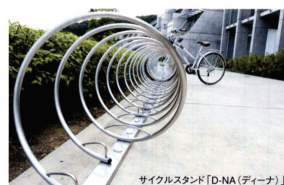
こうして、誰もがつくれなかった住宅用のノックダウン式スチール製シースルー階段「オブジェA」が完成した。しかし、最初のうちは予想もなかった問題が次々と発生したという。規格化による工場生産の階段といってもほとんどもとが邸別対応で、図面の担当者も、製造現

場も、混乱を極めた。それを乗り越えて問題を一つ一つ解決した結果、今では、住宅用室内階段のトップメーカーと呼ばれるまでになった。

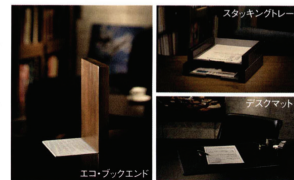
ものづくりに賭けるエネルギーは、とどまるどころを知らない。

この7月、カツデンアーキテックはまたまた業界の度肝を抜く新製品を発売した。それは手すりとも階段ともまったく関係のない製品だった。なんと、都市のランドスケープにも貢献する駐輪設備だった。ステンレスの丸パイプを使用し、2重のらせん状に仕上げたこのサイクルスタンド「D-NA (ディーナ)」は、自転車がかぶれにくく、キレイに駐輪でき、盗難も防止できるという駐輪場としての機能はもちろん、その美しいデザインで街行く人々の目を惹きつけてくれる。

この「D-NA (ディーナ)」の開発に合わせたように、2006年の11月には道路交通法が改正され、道路に駐輪場などが設置できるようになり、国土交通省が街の美観に貢献する駐輪場のあり方を模索していた中で、各方面から注目を集める製品になっている。さらに同社では、10月から列柱タイプのサイクルスタンド「D-NA PM (ディーナ・ピーエム)型」と「D-NA PK (ディーナ・ピーケー)型」という姉妹品も発売した。



また、8月からはステーションナリーの分野にも進出。第一弾として、天然木を使用した「エコブックエンド」をサトショップのYahoo!ショッピングで売り出した。これは坂田社長が木工場を訪れたときに、段板の端材が当たり前に廃棄されるのを見て、もったいない、何かに利用できないか…と思って開発したものだそう。機能だけを考えたスチール製のブックエンドでも十分に役に立つ、でも、厚さが30mmもある天然木を使用したブックエンドは、持っているだけで気分が違ってくる。上質なタオルで顔を拭いたときのような幸福感が味わえる。



「素材にこだわり、デザイン性にこだわり、持つことで心が豊かになる。そんな製品をつくりたいと考えています。たかがブックエンド、されどブックエンドですね。そんな気持ちを含めて「Saledo (サレド)」というブランド名をつけました。第二弾は、同じように段板の端材を利用した「スタッキングトレイ」。そして、らせん階段のセンターボールの端材を利用した「マルチホールド」など、バリエーションを増やしていきたいと考えています」と、少年のように目を輝かせながら抱負を語った坂田社長。「来春には、究極のシースルー階段!も発売しますよ」とのことでした。

11月14日(水)～16日(金) **Japan Home + Building Show 2007** でお会いしましょう。



本記事の内容は雑誌・媒体掲載時の情報です。
発表内容・製品仕様など発表当時と現在とで異なる場合があります。
あらかじめご了承ください。